

行政区での寄付金徴収方法の再考を...

私が子どものころから不思議に思っていたことですが、お祭りの寄付金や赤い羽根の共同募金などを集めています。行政区の班長が各戸に直接出向き、寄付・募金を募るのはおかしくないでしょうか？寄付というより、強制徴収のように感じます。

この不景気の中、少しでも出費を抑えたいと考えているのに、行政区の方が来られると恥ずかしくて「出せない」なんて言えません。仕方なく出しています。

昔からの流れをそろそろ変える時期ではないでしょうか？あくまでも寄付ですから善意で出す方だけにしてください。家にまで来られて断れる人がどれだけいると思いますか？

全員がお祭りを楽しんでいるわけではないので、お祭りの景品やお祭りのあとに行政区でお酒を飲んだりするためのお金は徴収しないでください。

違う方法を考えてください。各戸にまで来て「寄付をお願いします」

「す」とか「の募金をお願いします」とか言わないでください。

行政区活動については、それぞれの行政区が独自にさまざまな行事や活動に取り組んでいますので、行政が指導を行うことは好ましくないと考えます。活動内容に疑義などがある場合は、総会などの場を使って貴行政区で話し合い、解決していただく方法が最善かと思えます。

しかし、そういった場で発言できない、しづらい、といった事情も理解できます。誌面での掲載を機に各行政区で、寄付金等の取扱いについて協議していただければ、と考えます。

Voice.
皆さんの率直な「声」をお聞かせください。お意見やご提案は、担当する部署にお届けし、町政へ反映を図っていきます。
役場まちづくり政策課
広報広聴係

COLUMN

男女共同参画では「自分らしさ」という言葉がよく出てきます。人間は一人ひとりが他人にないユニークなものを持っていて、このユニークな部分が「自分らしさ」の「もと」になっているのですが、あなたの「自分らしさ」とは何でしょうか？

複雑でバラエティに富む人間の性格に対して、いくつかの基本型を決めて分類しようとすることが昔からよくされてきました。例えば紀元前2世紀頃には、人間には血液・黒胆汁・黄胆汁・粘液の4種類の体液があり、このうちどれが優位であるかによって、性格が快活・憂うつ質・怒りっぽい・鈍重に分類されるといわれました。皆さんおなじみの血液型説(A型はまじめ、B型は陽気など)は近代版体液説といえるでしょう。ちなみに科学的根拠は極めて薄いとされています。

このように、その人の個性をとらえようとする試みが遠い昔から行われてきたわけですが、いまだに人間の性格や知能というものについては、完全に明らかになっていません。一人ひとりの性格を把握するためにたくさんの性格分析テストがあります。どれもその人が持

男女共同参画コラム vol.5

つ全ての特性を分析できるものにはなっていないのです。それだけ「その人らしさ」をはかるのは難しいということですね。

それでも私たちは、日常生活で「社交的な人だ」「慎重派だ」などと、その人の性格を大まかに分類しようとしています。これは相手にレッテルをつけることによって、人付き合いを楽にしようという人間の知恵がもれません。私たちにあって、どんな性格なのか分からぬ人付き合い合つのはとても疲れることです。血液型占いがよく使われるのも、てつとり早く相手の性格を知ろうとする無意識の作戦がもれませんね。

ただし、そのようなレッテルから「あの人はこういう人だ」と決めつけてしまうと、その人の持つもつとさまざまな面を見落とすしてしまうことがあります。逆に自分でも「私はいまこういう人間だ」と思い込むことによって、いろいろなチャンスを減らしてしまっているのかもしれない。一人ひとりがもつ資質や能力を最大限活かすために、「自分らしさ」「あなたらしさ」って何だろうと改めて考えてみませんか。